

時間が足りない —60年を振り返って—



函館市医師会
函館西部脳神経クリニック

小保内 主 税

まさにいつの間にといい思である。まだまだ他人事と思っていたのに、還暦になってしまった。勤めていれば、定年退職等で転職という年齢だが、当方はまだまだ同じ仕事を続けなければならない。いや、続けられるというべきか。幸い、仕事は忙しすぎることもなく、暇を持って余している訳でもない。

思い起こせば、小学生の頃、サッカーに魅せられ、中学、高校とひたすらボールを蹴っていた。小学生の頃は、プロのサッカー選手に憧れた。しかし、当時、日本人のプロサッカー選手はおらず、プロ選手がどんなものかも知らずに憧れていた。中学に入り、自分の実力が分かってくると、夢のようなことは考えなくなったが、サッカーのことを考えるだけで毎日が楽しかった。高校時代も、サッカーだけでできれば幸せだった。進学校だったが、早々に落ちこぼれ、2年生の時には人生で初めて0点というのも経験した。3年生の春、高校総体予選が終わると、進学のことを考えざるを得なかったが、ほとんど3年近くが空白のようなものだったので、現役合格は諦めていた。それから、改めて1年生からの勉強をやり直し、1年の浪人を親に承諾してもらい、1年半計画で大学に合格したのだった。

50歳の時、高校の同級会に出席したが、同級生の記憶の中の自分は、「真っ黒に日焼けして、サッカーばかりしていた」姿だった。覚えていてくれて嬉しかったし、それなりに一生懸命だった自分としても、そういう姿で記憶されていることは、誇らしい気もする。問題は、大学時代である。思い出そうとしても、毎日、何に打ち込んだという記憶がない。先輩からの資料を基に試験に通るだけの勉強で済ましていた。スポーツはというと、中学以来の先輩がいたため、やむを得ずサッカー部に入部したものの、練習もあまり熱心ではなく、よくサボった。だがサボって、何をしたという記憶がない。他の同級生たちのように、女子大生などと合コンに興じたこともないし、家で勉強していた記憶もほとんどない。授業には出席したが、面白い授業は数少なく、教室ではひたすら教科書を読んでいた。学校以外の時間は、一体、何に費やしたのだろうか。思い出せないのである。

さて、50歳も半ばから、いろいろなことに手を染め始めた。その一つは、星空観賞である。初心者向けの望遠鏡やカメラに留めているが、それでも十分楽しめる。天候に左右されるものなので、他人の目

には道具ばかりいじっていて、実際の観賞頻度が少なく見えるかもしれない。しかし、結構入れ込んでいるつもりなのだ。ただし、見ようとしたときにすぐできそうでできない。結構、準備に時間が掛かるので、もっぱら自宅の庭に望遠鏡を持ち出して眺めている。街灯りの見えないところまで少し遠出するのがいいのだが、診療の後、その時間も十分には取れない（夜更かしする覚悟でいけばいいのだが…）。一番の難点は、北海道は星の観察に適しているのだが、観賞に良い空気の澄んだ季節は寒い！ 道具も含め、準備を整え、覚悟を決めてやらなければならないのだ。

最近、水泳に凝っている。初めは健康のためとスポーツクラブに通い始めたが、腰が悪いため、マシントレーニングで「向上すること」を目指して負荷を増やすのは健康に悪いと思われ、同じ種目を続けると飽きてしまう。そこでプールを中心にしたのだが、こちらは、上達の余地が十二分にある。というか、それなりに泳ぐ自信があったのに、実際には隣のレーンの小学3年生ぐらいの子たちにドンドン追い抜かれる状態だったのである。これはイカンと、まじめに練習を始めたのである。今はいい時代だと実感するのは、YouTubeなどの動画サイトではトレーニングやノウハウものの動画が溢れている。それらをダウンロードして参考にするのだが、これがなかなかいい。上達していると思うのだが、確認が難しい。自らの泳ぐ姿を見てみたいのだが、どこのプールでも撮影は禁止である。個人教授の際に撮影してもらおうしかないのだが、そう何度もお願いする気になれない。所謂、コストパフォーマンスが悪いのだ。近い内に、日本水泳連盟の泳力検定を受けたと思っているのだが、基準タイムを見ると60歳前後と小学3年生位が同レベルなのである。小学生に追いつくことはできても、追い抜くまでは難しそうである。

もっと若いときにしておけば良かったと思うことが多いこの頃、思い出せない大学時代の時間がもったいなかったと後悔する日々である。とにかく、もっと時間が欲しい。

